

「雲の発生ポイント」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

先日、5年生の子どもたちと、上学年屋上に空の様子を観察に行った。この日は快晴で、全雲量は0、雲はほとんど見えなかった。しかし、しばらく観察していると、「あ！雲がどんどん出て来てる！」という子どもが現れた。



平凡な青空しか観察できずにいた子どもたちは、一気に騒然となった。最初に気づいた子どもの話では、茶色のマンションの右側から次々と雲が湧きだしているらしい。「最初はマンションから出るけむりだと思ったけど、もっと遠いように見える。それにけむりみたいに消えないで、どんどん大きくなってる」と話していた。

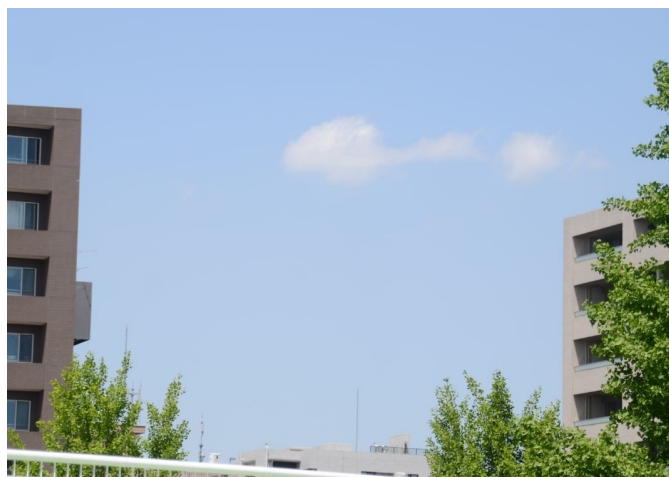


確かに茶色のマンションの右側から、次々と雲が湧きだして、右(北)に流されていく様子がわかった。まるで、空中に「見えない雲発生装置」があるかのような、不思議な光景だった。

雲はさまざまな要因で発生するが、たとえば、地形による成因は大きい。水蒸気を含んだ空気(気塊)が一定の方向に移動している時に、それが山に遮られれば、気塊は強制的に上昇する。すると気塊の温度は低下して、露点(決まった割合の水蒸気を含んだ空気中の水分が凝結する温度)に達すると、霧粒(雲粒)が形成され、雲として可視化される。しかし都市部では地形が平坦で、このような現象は起きにくい。



ところが、この日の雲は、本当に空の一角から、面白いようにどんどん湧き出して、北に向かって「積雲列」を形成していた。何かしらの原因で、この地点が「雲の発生ポイント」となっているのだ。



この発生した雲は、「積雲」(晴天積雲)である。通常積雲は、サーマル(熱気泡=水蒸気を含んだ上昇する気塊)が上昇することで露点に達して発生することが多い。空の決まったポイントで次々と積雲が発生するというのは、誠に不思議な現象である。

方位と距離から見て「環八雲」の可能性が考えられた。環八雲(かんぱちぐも)とは、環状八号線に沿って発生する積雲列のことで、東京湾と相模湾からの気流の収束で発生する。この時期としては非常に暑い日だったので、部分的に発生したのかも知れない。